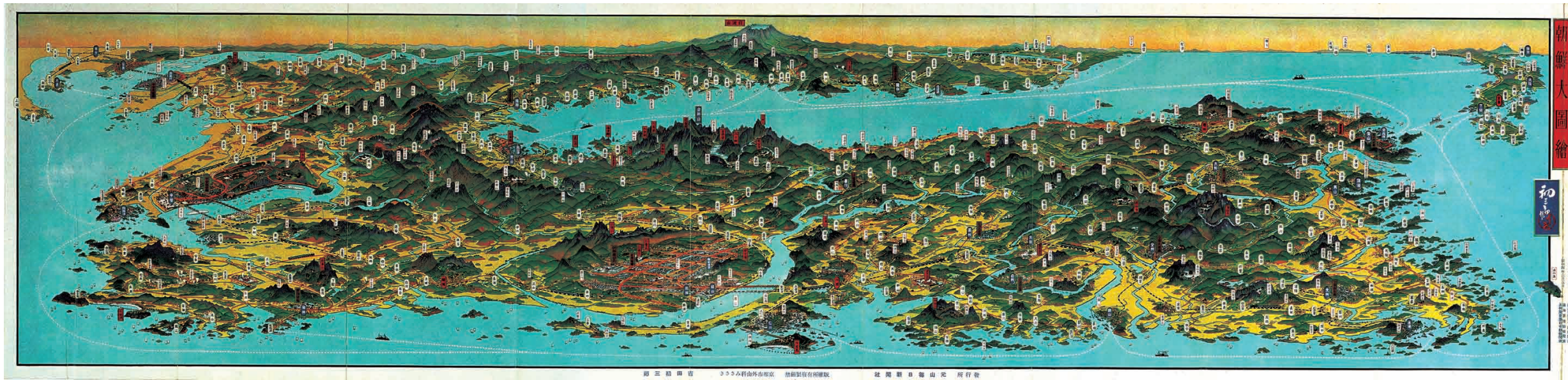


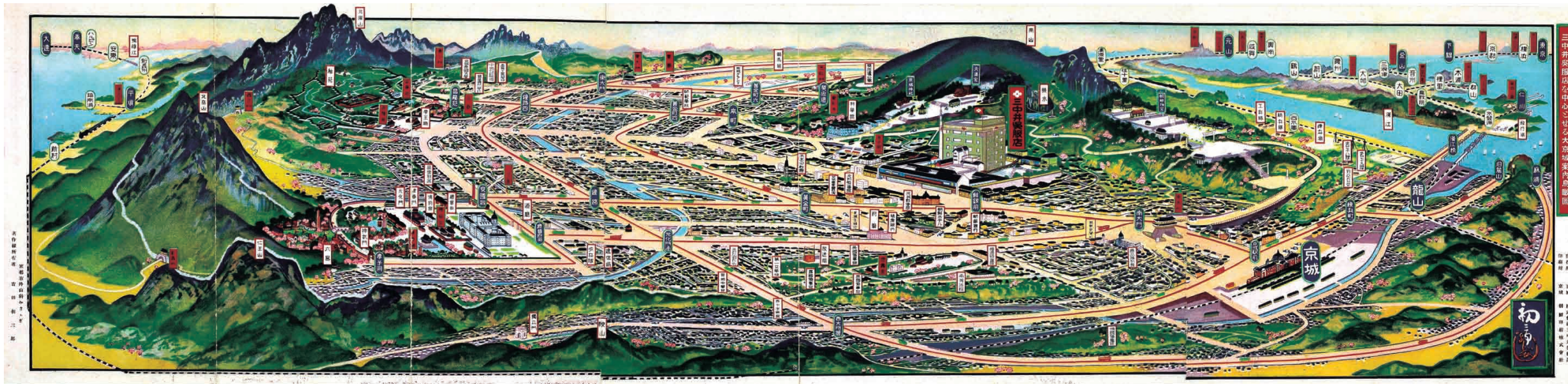
3大きく広げる

(上) 白頭山を画面上辺の中央におき、そこを軸にして、朝鮮半島を大きく湾曲させる、吉田初三郎独特の画法が用いられています。画面右端では、日本列島が富士山を交点として直角にねじ曲げられた線となり、画面奥の新潟、青森、函館、小樽、札幌へとつづく地平が水平線と重なってさらに、樺太（サハリン）、尼港（ニコラエフスク）、浦塩（ウラジオストク）、シベリヤ（シベリア）へ伸びて朝鮮半島につながっています。画面左端では、鴨緑江をわたる鉄道が奉天（瀋陽）へつながり、そこを分岐点として、ハルビン、北平（北京）、大連にも伸び、青島や上海へも視線を届かせています。

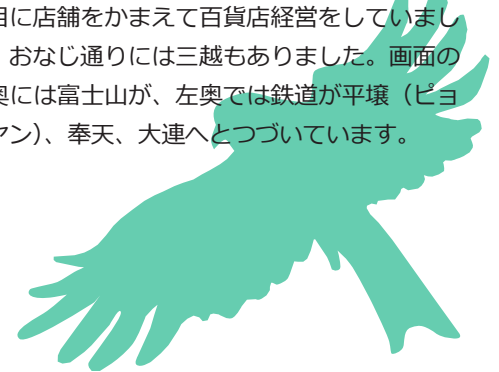


「朝鮮大図絵」元山毎日新聞社、朝鮮総督府、1929年

(下) 右に南山と漢江を、左に北漢山と北岳山をおいて、そのあいだに京城（ソウル）市街を描き、京城駅よりも朝鮮総督府庁舎よりもひときわ大きくみせられた建物が、三中井呉服店です。当時、三中井は、朝鮮銀行、京城郵便局、中華民国総領事館が近くにある、京城の本町一丁目に店舗をかまえて百貨店経営をしていました。おなじ通りには三越もありました。画面の右奥には富士山が、左奥では鉄道が平壤（ピョンヤン）、奉天、大連へとつづいています。



「三中井呉服店御案内」三中井呉服店、1929年



企画展
Nidegeocell/o
鳥のようには
鳥瞰図から1世紀前のアジアへ



ごあいさつ

滋賀大学経済学部之母体となった彦根高等学校（1923年～1944年）では、研究や教育に活用するために、同時代のさまざまな文献、報告書、地図などを収集していました。それらのなかに、吉田初三郎（1884年～1955年）による鳥瞰図があり、現在、滋賀大学経済経営研究所で保管されています。

「大正の広重」に識えられた初三郎の鳥瞰図は、大量に制作、販売され、観光の必携とされたりおみやげ品として重宝されました。初三郎式鳥瞰図は、その独特な構図によって、不思議な空間をつくりだし、それが見る人びとを魅了しました。

彦根高等学校から滋賀大学経済経営研究所に伝われた初三郎式鳥瞰図は、膨大な量かつられたそのなかでも、かつての朝鮮にかかわるものが多くありました。それらを展示したこの企画展をおして、いまからおよそ100年まえのアジアへ、鳥のように、飛びたくみましょう。

2017年1月

平成28年度企画展

鳥のようには—鳥瞰図から1世紀前のアジアへ
2017年1月30日 月 — 6月30日 金

【編集・発行】

滋賀大学経済経営研究所
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1
TEL 0749-27-1047
<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/enl/index.htm>
2017年2月14日発行

1 観光する 懐中案内

いまからおよそ 1 世紀 = 100 年まえの 20 世紀前期もまた、世界のあちこちがさまざまなネットワークで結ばれるグローバル化の時代でした。当時の人びとも政治、経済、文化、教育、軍事、観光、歓楽、生活などを目的として、国境を越えて活動していました。

当時の朝鮮半島は、帝国日本の版図でした。そこにある名所旧跡、観光地、景勝地を訪れるひとにむけて鳥瞰図を載せた案内がつくられました。

朝鮮半島東海岸の金剛山は、内金剛、外金剛、海金剛からなる「奇峰峻嶺」の「世界的名山と賞讃される」と誇られた景勝地です。当時の京城から日帰りでもゆける内金剛探勝や 10 日間の内外金剛回遊など四季折々に楽しめる観光地でした。

朝鮮半島各地の気候、沿革、産業、商業などを知らせる案内にも鳥瞰図が載せられると、それが人目を惹きつける役割を果たしています。

朝鮮半島西海岸の南部に位置する港町群山。1899 年の開港という群山は、「米の港」として、また鯛に鰯の水揚げで知られてゆきます。町の西方となる丘陵には群山公園があり、春夜桜の眺めは「一大名所」となりました。

「朝鮮金剛山交通大鳥瞰図」朝鮮総督府鉄道局 1929 年
「金剛山電鉄 金剛山探勝」金剛山電気鉄道株式会社 発行年不明
「金剛山」朝鮮総督府鉄道局 1932 年版
「群山案内」群山商業会議所 発行年不明
「慶州図絵」朝鮮総督府鉄道局 1929 年
「朝鮮旅行案内」朝鮮総督府鉄道局 1928 年版
「キャンプ」朝鮮総督府鉄道局 発行年不明
パネル「朝鮮金剛山交通大鳥瞰図」掲載写真
パネル「慶州図絵」掲載写真

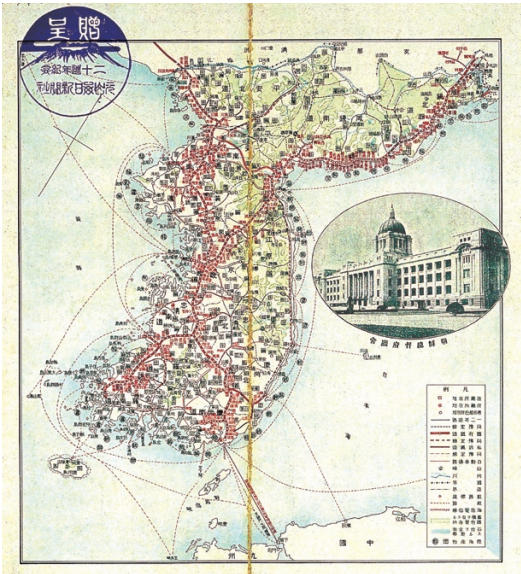
2 変形する 彎曲と誇張

吉田初三郎の鳥瞰図は、彎曲と誇張による変形がその大きな特徴となっています。この画法はさまざまな鳥瞰図で模倣されてゆきます。名づけて初三郎式鳥瞰図。観光地にとどまらず、朝鮮半島各地の都市や町、さらには半島全体をも視界にとりこんだ鳥瞰図が描かれてゆきます。

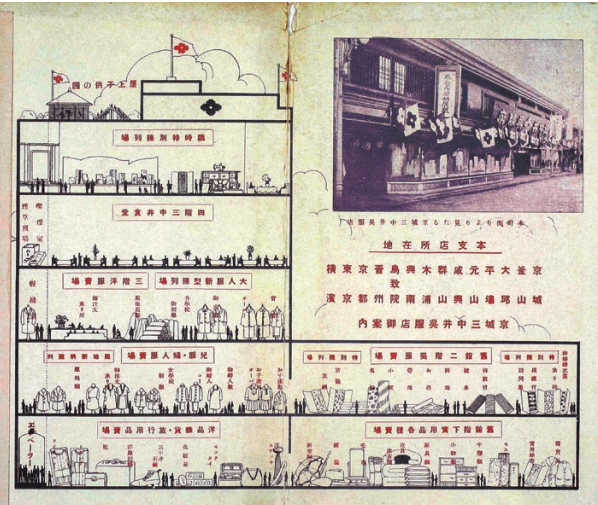
鳥の目を得たかのような初三郎の筆は、朝鮮半島をぐうんとねじ曲げてその全体を一目で見渡そうとします。

他方で当時の最先端をゆく百貨店を描くときには、「大京城」のなかにその店舗をそびえ立たせるとともに、店内にも分け入って、各階の売り場を案内してショッピングを楽しもうとする客を誘います。

「朝鮮大図絵」元山毎日新聞社 1929 年
「三中井呉服店御案内」三中井呉服店 1929 年
パネル「朝鮮大図絵」掲載地図
パネル「三中井呉服店御案内」掲載店舗断面図



「朝鮮大図絵」
元山毎日新聞社 1929 年



「三中井呉服店御案内」
三中井呉服店 1929 年

4 複製する

吉田初三郎が描いた鳥瞰図は、いまもとてもよく好まれ、美術館や博物館での企画展などでしばしば展示されています。ミュージアムショップでは、おみやげもののひと品として、そのレプリカが販売されることがあります。

鳥のように上空から、ひとが生きる社会を眺める——こうした欲望はいつの時代でも、どの場所に生きる人びとにも共有されていたのでしょう。初三郎よりもまえの時代を生きた絵師もまた、鳥瞰という視線を我がものとしていました。

20 世紀の帝国日本を絵師として生きた初三郎は、そうした時代と領野にみあうよう、朝鮮半島や台湾、そして中国大陆の各地を描きました。初三郎の鳥瞰図は、現代の台湾でも画集が刊行され、韓国の雑誌でもとりあげられています。

編集名・書名	吉田初三郎原作「湘南電鉄沿線名所図絵 復刻版」
出版者名	横浜都市発展記念館
発行年	2004 年

編集名・書名	五雲亭貞秀原作「ペーパークラフト富士山 富士山真景全図」
出版者名	神奈川県立歴史博物館
発行年	

編集名・書名	荘永明編撰「台湾鳥瞰図 一九三〇年代台湾地誌絵集」
出版者名	遠流出版事業股份有限公司
発行年	1996 年

編集名・書名	LS Networks「보보담 Issue15, Winter」
出版者名	LS Networks
発行年	2015 年

編集名・書名	東北歴史博物館「観光旅行 大正～昭和初期のツーリズム」
出版者名	株式会社 オークコーポレーション
発行年	2002 年

編集名・書名	財団法人 三井文庫三井記念美術館「日本橋絵巻」
出版者名	財団法人 三井文庫三井記念美術館
発行年	2006 年

編集名・書名	岡田直（横浜都市発展記念館）「図録 昭和はじめの「地図」の旅 横浜発日本ひとめぐり」
出版者名	横浜都市発展記念館
発行年	2006 年

編集名・書名	湯原公浩「別冊太陽 大正・昭和の鳥瞰図絵師 吉田初三郎のパノラマ地図」
出版者名	下中美都（平凡社）
発行年	2002 年

編集名・書名	堀田典裕「吉田初三郎の鳥瞰図を読む 描かれた近代日本の風景」
出版者名	河出書房新社
発行年	2009 年